

「化学安全ガイド」

日本化学会 編

単行本, 161ページ, 定価2,600円
(丸善株式会社, 1999年11月)

厚生労働省から報告されている化学物質等による災害事例や災害統計によると、化学物質による業務上疾病は毎年200～300件程度(休業4日以上)発生しており、長期的には減少傾向にありますがここ数年横ばいの状態が続いています。このような化学物質による災害の発生原因の多くは化学物質の危険有害性に対する認識が不十分であることが少なくありません。今回紹介する「化学安全ガイド」はこのような現状を打破するには最適な書籍であり、また化学の分野で研究や業務を安全に進めるための手引書として推薦する一冊です。

化学実験室や化学工場・プラントで働く方々を除いて、一般社会には安全は当たり前で特に努力しなくても安全は保たれると信じている人が大半かもしれません。しかし、安全は放っておいては得られない、自然には得られないと本書では訴えています。そして、一度安全が得られてもいつまでも安定して続くわけではなく、安全のメンテナンスは欠かせません。

本書では、安全の基本理念から化学物質・化学反応の危険性や災害防止策が簡潔にまとめられています。化学物質管理に役立つデータをもとに危険と安全の限界を明確にすることが重要で、リスクの大きい環境で安全を達成するために、知識に基づいて行動することが要求されると書かれています。更に過去に起こった悲惨な事故事例についても書かれており、現代の様々な安全対策の整備は、過去の悲惨な事故の犠牲の上に成り立っているものであることがわかります。

一昔前まで「公害の街」として知られた北九州市で育った私にとって、環境問題や労働安全衛生には特別な思いがあります。そのため、化学物質の濃度測定を簡易に行える検知管の開発を通して貢献できるように日々努めており、座右の書として様々な場面で本書を利用しています。私たちの生活には欠かせない化学物質を安全にそして有効に取り扱うために「化学安全ガイド」を傍らにおいて頂ければと思います。

(株式会社ガステック技術部開発1グループ 中村亜衣)